

ジェイムスベイ・コミュニティー・プロジェクト

(コミュニティーセンター)

レポート：松本百子

★概要

子どもから老人まで地域のあらゆる年代に合ったプログラムを提供しているコミュニティーセンター。地域での活動へ活発に参加することを促すことによって、個人、家族と地域保健を保つことを目的としている。

ボランティアが 300 人もいて、それは正社員 25 人を雇えるほどの働きをしていると言っていた。ボランティア精神の強いカナダの現状を目の当たりにした。

★マザーグースの活動

コミュニティーセンター内で、人気のある乳幼児活動(マザーグース)を視察。カナダの中ではとても一般的な活動だそうだ。人気があり、参加を待っている方もいるとのこと、予約制になっている。生後 12 ヶ月までの 11 組の親子が先生を囲んで丸くなり、歌、お話、スナックタイムをおこなう。

小さなスペースにソファや様々な椅子が置いてあり、リラックスして自然な体制で参加できるようになっていたのが印象的であった。

お父さんの参加もあったが、珍しいことで母親の参加がほとんどだと言っていた。プログラムは、マザーグースプログラムを参考に、マザーグースの資格を持った先生が組み立てている。

視察した日は、「こんにちは」の歌で始まり、音楽にまつわるお話をしてから、手遊びやふれあい遊びをおこなう。日本でも聞いたことのある、グーチョキパーやきらきら星、時計の歌など 8 個をおこなう。

最後は、「さようなら」の歌で終わり、児童館での幼児向け活動と非常に似ていた。

母親たちが、とても楽しそうに参加しており、大きな声で一緒に歌ったり、踊ったりしている姿が日本と違っていた。

★利用者の声を聞くシステム

アンケートボックスが設置してあり、利用者の希望がマザーグースの活動に反映させられるようになっていたのが、よい点だと思った。地域内で、顔見知りになり友だちになることと、歌や手遊びは子どもに向けておこなうだけでなく、親に覚えてもらい家に帰ってからも実践できるように、教えていくことを目的としていると話していた。

★地域の中で子育てをともに助け合う

子どもだけでなく、親育ちの支援もしている様子うかがえた。また、ベビー服の交換や、寄付の棚があり、子育てしていく助けになっている様子が見受けられた。

母親たちは、最初はよそよそしそうにしているが、コミュニティーセンター内の様々な活動で会うことで「ここでも。あそこでも。」と、仲良くなっていくと言っていた。

地域の中で子育てをともに助け合う仲間作りを手助けし、さらには子育て中の親への指導をしている様子は、私たちの役割と同じであり、改めて地域の中での児童館の役割の大切さについて実感するよい機会となった。